



4月23日、市消防本部は鳥羽市救急サポートステーション認定事業所としてホテルいじか荘を新たに認定し、交付式を行いました。

鳥羽市救急サポートステーション制度は施設内にAEDを備えており、普通救命講習を受講したかたが複数名いる事業所に対し認定を行う制度です。

急病人が発生した際に、救急車が到着するまでの間、応急処置を行うことで、救命率を向上させるための取り組みであり、鳥羽市内ではすでに26施設を協力事業所として認定しています。

救急サポートステーション認定



現在使用している答志島 - 神島間（約8km）の海底送水管が布設から40年経過し老朽化が進んでいることから、今後も安全で安心な水を供給するために、新たな送水管を布設しました。

送水管は直径10cmのポリエチレン管が二重の鉄線でコーティングされており、約18cmの太さがあります。この耐久性がある送水管を専用台船に積み込んで、海底に布設していきました。

6月中旬頃から新しい送水管による給水が開始されます。

答志島・神島間の海底送水管が新しくなります



4月24日、加茂小・中学校の卒業生である片岡響さん、片岡築さんと安楽島小学校、鳥羽東中学校の卒業生である藤原慎さんから新型コロナウイルス感染症予防用としてマスク4,000枚を市教育委員会へ寄附していただきました。

片岡響さんは「育ててくれたまちに貢献して子どもたちの笑顔を守りたいと思い寄附に至った。みなさんの健康を願っています」と話してくれました。

小竹教育長は「地元を思ってくくださる気持ちも含めて学校へ届けたい」と感謝を述べました。

マスクは教育委員会より市内の各小・中学校や幼稚園に届けられました。

母校へマスク4000枚を寄附



5月15日、鳥羽市老人クラブ連合会より市へ、10万円の寄附をしていただきました。

鳥羽市老人クラブ連合会の小林千代太郎会長は「新型コロナウイルス対策に活用し、不安な日々を過ごされている市民のみなさまの不安解消に役立ててほしい」と思いを話してくれました。

中村市長は「温かいお心遣いありがとうございます。今後、新型コロナウイルス感染症が収束に向かったとしても、その影響は長く続くと見込まれますのでその対策に役立てたい」と感謝を述べました。

10万円の寄附をしていただきました